

ホームページによる情報の発信と ビジュアルコミュニケーション・デザインの見地からの評価

—大阪府下自治体の IT への取り組みと実態について—

北尾和信
杉田慶子
(樟蔭東女子短期大学専任講師)

はじめに

今日 Web による情報の発信は地方自治体の広報活動の大きな要素として、定着してきている。各市町村は、この潮流に乗り遅れないように、HP (Home Page) の開設を急いだ。大阪府下、44 市町村のうち平成 13 年度では 43 市町村が HP を開設、本年度に最後の町として、南河内の太子町も HP を開設し、大阪府下の開設率は 100% となった。

国土交通省の調査によると、平成 10 年 12 月現在で、全国の開設率は 73.3%、検討をはじめている自治体が 19.2% で、開設を検討していない・その他は 7.5% であり、現在は 90% を越える自治体が開設しているであろうと考えられる。

しかしこの急速なインターネットの普及、それに伴う十分な基盤整備が行われない中で各市町村の IT 化への取り組みは、デザインの観点から見ると、レベルのばらつきが大きく、HP への来訪者を十分に満足させることができていないのではないかと考えられる。インターネットが普及し始めたころは、マウスのクリック一つで世界の情報を得られることが誰にとっても驚きと強い衝撃であった。画面を食い入るように、ダウンロードに数分、場合によっては数十分かかることもものともせず見つめた。アナログ電話回線から、ISDN 回線、各種 DSL 回線、CATV 回線の活用、光ファイバ網の整備によるブロードバンド通信へとインフラも整い始め、インターネットが情報取得の通常のツールとなるとともに、利用者也 HP の質を問い始めた。

HP は、「ほしい情報に簡単にアクセスできる」「見やすい」「見て楽しい」ことがもっとも大切であり、GUI (Graphical User Interface) は、自治体と住民の距離を近づけるインターフェイスとして重要である。本研究は、地方自治体が広報活動に HP をいかに活用しているか？ またビジュアルコミュニケーションの手段として、デザインの的に適切に情報発信できているか、住民の求める情報を発信できているかを明らかにしたい。

1. 地方自治体におけるホームページの現状

都道府県および政令指定都市の HP 開設率は、平成 10 年度時点ですでに 100% に達し、自治体の規模が小さくなるにつれ、その開設率は低くなっていく。HP を活用した情報の内容は、総務省の「地域情報化計画・地域情報化施策調査」によると

- ・ 行事・イベントの紹介
- ・ 情報公開

- ・観光・物産情報の提供
- ・公共施設利用案内
- ・行政の各種事業案内
- ・地域産業情報
- ・統計情報
- ・生活情報
- ・広聴・アンケート
- ・健康・医療情報
- ・研究内容
- ・申請・届出手続きの案内
- ・生涯学習情報
- ・地域大学等の紹介
- ・双方向システム
- ・図書情報
- ・電子会議室
- ・申請書のダウンロード
- ・電子相談室
- ・その他

以上のような内容が提供されている。HP を開設しての反応としては、「行政の取り組みを、地域住民に知ってもらう上で効果があった」「住民活動の手段としてインターネットが活用されてきている」「地域情報化を推進する上での活性策の一つと期待する」などの評価するものと、「活性化にどの程度効果があったのか現状では不明」「現時点では特に効果は見えない」「インターネット愛好家には効果はあるが、一般住民となると疑問」といった懐疑的な反応が混在している。地方自治体が HP を開設する理由としては、

- ・発信したい情報のメディアとしてインターネットが適切である。
- ・全国的に多くの自治体が HP を開設している。
- ・首長や議会からの要請。
- ・近隣自治体が HP を開設している。
- ・情報発信に意欲的な職員が自発的に。
- ・広報・情報発信のコストが安い。

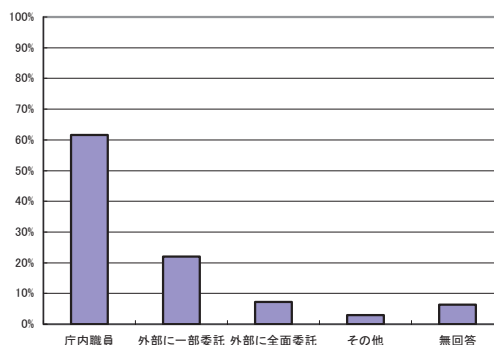
などがあげられ、特に首都圏、近畿圏などの開設率は非常に高い。HP の HTML を作成するプロセスとしては、平成 10 年度段階では（表 1）のように、庁内職員が行っているが 6 割と最も多く、外部に一部委託、全面的に外部委託の順となっている。

しかし、実際に HP の制作・デザインの段階に移ると平成 8 年度の同調査では、庁内職員が制作・デザインを行うケースが 59%を占めていたが、（表 2）のように、外部に委託をする事例が

（表 1）HP の企画体制

庁内職員	61.6%
外部に一部委託	22.0%
外部に全面委託	7.2%
その他	2.9%
無回答	6.3%

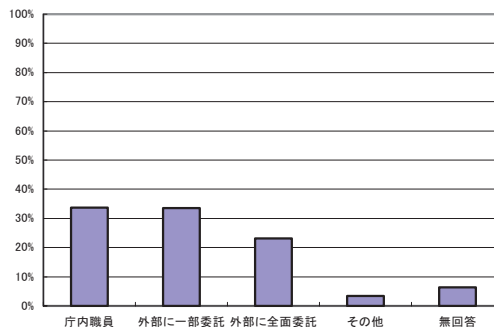
平成 10 年 12 月国土交通省調査



(表 2) HP の制作体制

庁内職員	33.7%
外部に一部委託	33.5%
外部に全面委託	23.1%
その他	3.4%
無回答	6.3%

平成 10 年 12 月国土交通省調査



多くなってきている。現状では、多くの自治体が、企画を庁内職員で行い、デザイン制作は外部に委託するケースが一般的となってきている。これはやはり、HP への来訪者が増え、また目が肥えてくるにしたがって「ほしい情報に簡単にアクセスできる」「見やすい」「見て楽しい」ことが重要視されるようになり、デザインの専門家に依頼するケースが増えてきたこと、また HP を専門に制作するデザインスタジオが増えてきたことなどに起因すると考えられる。

2. ホームページの GUI (Graphical User Interface)

HP はデザインの分野では新しいメディアで、エディトリアルデザイン（書籍の編集やカタログの編集）に分類されている。大きく分けると表紙に相当するトップページ（トップページをさしてホームページという）、目次に相当するナビゲーション、その内容に相当するコンテンツに分かれる。エディトリアルデザインと異なる点は、ナビゲーションが動的に行われることであろう。

マッキントッシュがユーザーフレンドリーをコンセプトにマッキントッシュ・ウインドウで誰もが使える・使う人に優しいコンピュータを提供し、コンピュータが身近な道具となったように、また、積極的なユニバーサルデザインへの取り組みが求められるように、「ユーザーフレンドリー」は、現代のキーワードともいえる。情報の伝達が、「聞く情報」から「見る情報」へと移行していく中でホームページの GUI は、「見やすく・楽しく・欲しい情報」にいち早くたどり着くために大切である。「つまらない」ホームページは、制作者の独りよがり、画面のデザイン的な充実、ナビゲーションの容易さはコンテンツの充実と同等に重視される必要がある。「ユーザーフレンドリー」は、来訪者の意見を取り入れ、常に使いやすさを優先していくことから生まれる。

今回、自治体の HP を閲覧した上での問題点は、大別すると二つに分類された。

デザイン上の問題として

- デザインの不統一による見にくさ。
- 自治体情報が整理されていないため、情報量が多すぎることによる見にくさ。
- ナビゲーションの不統一による情報の探しにくさ。
- ナビゲーションツリーが深すぎて迷い込んでしまう。

情報通信上の問題として

- 写真や動画を多用するための表示時間の長さ

などが考えられた。通信上の問題では、未だブロードバンドの普及はその途上であり、ほとんどの利用者がアナログ回線や ISDN 回線で 56Kbps～64Kbps の通信速度であることを制作する側は理解しておく必要がある。デザインを制作する立場としては写真や動画・図記号を多用し、GUI の充実を図ろうとする。自治体の庁内では、ブロードバンド化が進み ADSL 回線の 6Mbps から、光ファイバ通信網の 100Mbps と一般利用者の 100 倍から 1000 倍の速度で閲覧できるため、ついつい表示にかかる時間を見落としがちになる。これは決してユーザーに優しいとはいえない。写真や動画・図記号の活用を最小限に抑える必要がある。

またデザイン面では、通常、エディトリアルデザインでは、紙面の統一を図るためグリッドシステムが使われるのが一般的である。グリッドシステムは、紙面の統一の取れたレイアウト、見出し文字と本文の文字の統一性、文字のジャンプ率の統一、ヘッダ・フッタの統一などで多ページ間の連携を図っている。グリッドシステムは見やすく、好感の持てる紙面を作成する上で効果的であり、HP での活用を図る必要がある。情報を整理して、最小限にとどめることは、編集の基本ともいえる。

3. 大阪府下自治体のホームページの調査とデザイン評価

(1) 調査時期：2001 年 11 月～2002 年 1 月上旬

(2) 調査内容：大阪府下 43 市町村の公式 HP（トップページ）を調査

この時点では太子町は未だ開設されていなかった。

なお、トップページには目次省略型のものがあり、省略型は 2 層目のページを含めて評価した。

(3) 評価項目

- | | |
|------------|-----------------|
| 1. タイトルの明示 | 6. 情報の整理 |
| 2. 書体 | ・ナビゲーションの分かりやすさ |
| 3. 文字組み | ・利用のしやすさ |
| 4. イラスト表現 | ・新着情報の更新と分かりやすさ |
| 5. 配色 | 7. 歓迎感 |
| ・カラーデザイン | 8. 全体の統一感 |
| ・可読性 | 9. 印象度 |

以上の項目について、デザインの立場から 5 段階の評価を加えた。なお、2002 年 8 月には、調査時期と比べトップページのデザインが 24 市町村で更新されていた。

更新された市町村は、

大阪市、池田市、箕面市、豊中市、摂津市、枚方市、寝屋川市、四條畷市、大東市、東大阪市、柏原市、堺市、忠岡町、岸和田市、貝塚市（一部）、熊取町（一部）、泉佐野市、田尻町、阪南市、岬町、羽曳野市、富田林市、河内長野市 および新設、太子町

(4) 評価項目の詳細および評価

① タイトルの明示

タイトルは住宅で言えば表札に当たり、来訪者が一目見て分かなければならない。

ここでは、以下の要素をもとに、タイトル明示の評価を行った。

- ・適度に目立つか。むやみに目立たせるとバランスが悪くなり、逆にページ全体と融合させすぎると埋もれてしまい、タイトルとしての機能が果たせない。
- ・魅力的か。
- ・メッセージ性があるか。
- ・親近感を抱くか。
- ・来訪者に安心感を与えるか。

タイトル明示の5段階評価 平均3.4点

5点：交野市

4点：高槻市・枚方市・寝屋川市・柏原市・岸和田市など21件

3点：17件

2点：島本町・泉佐野市・松原市・美原町

1点：0件

② 書体

よく使用されるフォントにはゴシック体と明朝体があり、文字数の多い印刷物などには明朝体が多く用いられているが、Webには、縦横の太さが均一のゴシック体を使用の方が、画面上では読みやすく適している。今回調査したところでは、本文はすべてゴシック体が使用されていた。

大きさについては本文と見出しタイトルとの大きさの比、つまりジャンプ率が適当あるかを評価した。

ほとんどの市町村では、タイトルと本文とのジャンプ率は比較的大きく、メリハリがあるが、見出しと本文とのジャンプ率はあまり大きくない。しかし、画面イメージに合った魅力的なページ創りを目指すなら、見出しと本文のジャンプ率やフォントにも全体のバランスとメリハリを考慮した一工夫が必要である。

ここでは、以下の要素をもとに、書体の評価を行った。

- ・読みやすい大きさ、太さ、色で、フォントの選び方は適切か。
- ・タイトル、見出し、本文のバランスとメリハリは適切か。
- ・画面イメージと書体は一致しているか。

書体の5段階評価 平均2.9点

5点：0件

4点：交野市・大阪狭山市

3点：34件

2点：高槻市・豊中市・門真市・四條畷市・泉大津市・泉佐野市・田尻町

1点：0件

③ 文字組み

モニター上の文字を読むというのは、慣れていないこともあり、印刷物に比べると読みづらい。しかし印刷物同様、HPも情報を伝えるという性格が変わりはなく、文字情報は欠くことができない。より快適に文字を読むためには、書体だけでなく、文字組みの良否も影響する。

ここでは、以下の要素をもとに、文字組みの評価を行った。

- ・長い文章は適度に段落が分かれ、読みやすいか。
- ・ページの端から端まで文章が広がらないように、左右に適当なマージンが設けられているか。
- ・行間が詰まりすぎて読みにくくないか。
- ・見出しとそれに続く本文はグループ化されて、まとまりがあるか。
- ・縦組みを用いた場合は、横組み文字とのバランスを考えた配置をしているか。
- ・左揃え、中央揃えなどを適切に取り入れ、読みやすいレイアウトとなっているか。

文字組みの5段階評価 平均2.9点

5点：0件

4点：豊能町・交野市・岸和田市・千早赤阪村・河内長野市

3点：30件

2点：箕面市・高槻市・泉大津市・貝塚市・田尻町・阪南市・松原市・藤井寺市

1点：0件

④ イラスト表現

ページをより魅力的に演出しメッセージ性を高めるために、イラストの果たす役割は大きい。ここでは、写真・絵柄だけでなく、図・記号も含めたイラスト表現について、以下の要素をもとに評価を行った。

- ・市町村の特長をビジュアルに表現しているか。
- ・キャプションや説明文の添え方は適切か。写真や絵柄の種類によっては、簡単な説明やキャプションを添えるとページとの関連性がより明確となり、イラストの存在感も増す。

例) 茨木市：若園公園のバラ園・国指定文化財郡山宿本陣（椿の本陣）

枚方市：市の花「菊」と三十石船

大阪狭山市：建築家 安藤忠雄氏

- ・大きさ、配置はバランスがよく、ページに馴染んでいるか。

- ・楽しさを演出しているか。
- ・画像データが大きすぎて、ダウンロードに時間がかかりすぎないか。
例) 河南町はイラストに沿って並んでいるアイコンをクリックすると、イラストが河南町の春夏秋冬の景色に次々と変化し大変美しいが、ページを開くのに時間がかかる。
- ・写真はページに馴染むような加工がなされているか。

イラスト表現の5段階評価 平均3.2点

- 5点：岸和田市・千早赤阪村・大阪狭山市
- 4点：大阪市・茨木市・枚方市・大東市・柏原市・熊取町・泉南市・岬町・松原市・羽曳野市
- 3点：22件
- 2点：箕面市・寝屋川市・守口市・門真市・貝塚市・藤井寺市・河内長野市
- 1点：豊中市（イラスト表現がない。）

⑤-1 配色（カラーデザイン）

ページを開いたときの第一印象は色によるところが多い。色から連想されるものやイメージは視覚的コミュニケーションの役割を果たし、また、デザインイメージを創る上で大切な要素である。ページの訴求力を高めるためには、色の持つメッセージ性を生かすことが重要である。

ここでは、以下の要素をもとに、カラーデザインの評価を行った。

- ・社会性が高く安心感、信頼感があるか。
- ・ページの主張とカラーコンセプトが一致しているか。
- ・調和のとれた配色で、カラーコンセプトが感じられるか。（配色技法の例を以下に示す。）

テーマカラー（基調色や支配色）で統一感を出す。

セパレーション効果、アクセント効果、レピテーション効果を利用する。

色相を統一する（ドミナント・カラー配色、トーン・オン・トーン配色など）

トーンを統一する（ドミナント・トーン配色、トーン・イン・トーン配色など）

色相もトーンも統一する（カマイユ配色、フォ・カマイユ配色など）

色相やトーンを変化させる（トリコロール配色、ビコロール配色など）

配色（カラーデザイン）の5段階評価 平均3.6点

- 5点：柏原市・藤井寺市・千早赤阪村
- 4点：大阪市・池田市・箕面市・茨木市・寝屋川市・門真市・東大阪市など19件
- 3点：20件
- 2点：貝塚市
- 1点：0件

⑤-2 配色（可読性）

色の影響による文字の読みやすさのことを可読性といい、良否には、第一に明度差、第二に彩度差、第三に色相差が影響する。可読性を高めるためにはこの順に背景色と文字色の差を大きく取ればよい。一例を挙げると背景色が白の場合、文字色は黒、青紫、青などにすると可読性は高くなる。

ここでは、可読性について評価を行った。

配色（可読性）の5段階評価 平均3.5点

5点：0件

4点：守口市・四条畷市・東大阪市・八尾市・熊取町・美原町・河内長野市等22件

3点：20件

2点：忠岡町

1点：0件

⑥-1 情報の整理（ナビゲーションの分かりやすさ）

利用者が的確に情報を検索できるよう、手助けするのがナビゲーションの役割である。ナビゲーションにはいくつかの種類があり、情報の内容や、ページイメージを考慮した使い分けが必要になる。

ナビゲーションには次のような種類がある。

- ・表札、ケイ枠型：文字やアイコンが書かれた台やケイ枠で囲ったタイプ。
- ・インデックス型：ブリーフケースのインデックスを模したタイプ。
- ・アイコン型：絵文字が描かれたタイプ。カジュアルで楽しく、理解しやすい。
- ・ボタン型：シンプルな小型タイプ。
- ・アンダーライン型：文字にアンダーラインを引いたタイプ。手軽なので比較的良好に使用される。
- ・色文字型：色文字を使ったタイプ。ナビゲーションでない文字色と変化を持たせないと見つけにくい。
- ・プルダウン型：データがぶら下がるように表示されるタイプ。その中から利用者が必要な情報を検索する。
- ・文字入力型：利用者が必要な情報を入力して検索するタイプ。多様なニーズに応えやすい。
- ・写真、イラスト型：写真やイラストをクリックするタイプ。比較的大きく目立つナビゲーション。

ここでは、以下の要素をもとに、ナビゲーションの分かりやすさの評価を行った。

- ・操作は簡単で快適か。

- ・機能的で迷わず見つけることができるか。
- ・アイコン等の絵柄は情報の内容を的確に表現し、理解しやすいか。
- ・ページイメージと合っているか。
- ・魅力的で期待感があるか。

情報の整理（ナビゲーションの分かりやすさ）の5段階評価 平均3.5点

5点：交野市・四条畷市

4点：能勢町・東大阪市・和泉市・高石市・岸和田市など20件

3点：20件

2点：美原町

1点：0件

⑥-2 情報の整理（利用のしやすさ）

情報を検索しようとするときに、まず目に付くのが先に述べたナビゲーションだが、利用者が得たい情報がないとナビゲーションの意味がなく、また逆に多すぎても、かえって迷うだけである。つまり、いかに上手に大量のコンテンツを整理しているかが、利用のしやすさに繋がるのである。

ここでは、以下の要素をもとに、利用のしやすさの評価を行った。

- ・探したい項目が見つけやすいか。
- ・実用性のある情報が掲載されているか。
- ・スクロールが多すぎないか。特に横スクロールは見づらい。
- ・分かりやすい見出しの書き方がされているか。
- ・情報がテーマごとに分かりやすく分類されているか。

情報の整理（利用のしやすさ）の5段階評価 3.3点

5点：大阪市・四条畷市

4点：茨木市・高槻市・寝屋川市・守口市・熊取町・藤井寺市など14件

3点：22件

2点：豊中市・泉佐野市・泉南市・岬町・千早赤阪村

1点：0件

⑥-3 情報の整理（新着情報の更新と分かりやすさ）

HPを何度も訪問してもらい、利用してもらうためには、常に新しい情報を発信する必要がある。しかし、頻繁にページ全体をリニューアルするのは大変手間がかかる。そこで、頻繁に更新する項目を新着情報やトピックスのコーナーとして設けると来訪者に新鮮な印象を与えることができ、管理も比較的容易に行うことができる。

ここでは、市町村の新着情報やトピックス関連のナビゲーション、見出し、情報発信月日の記載状況を手がかりに、新着情報の更新と分かりやすさの評価を行った。

情報の整理（新着情報の更新と分かりやすさ）の5段階評価 3.4点

5点：能勢町・高槻市・吹田市・四条畷市・高石市

4点：豊中市・枚方市・交野市・守口市・門真市・大東市・東大阪市・和泉市・岸和田市・泉南市・阪南市・大阪狭山市

3点：24件

2点：0件

1点：岬町・河南町（更新状況が不明）

⑦ 歓迎感

ここでは、以下の要素をもとに、評価を行った。

- ・ウェルカムスペースが設けられているか。
- ・言葉に歓迎感が表現されているか。
- ・ページ全体から親しみ、楽しさが感じられるか。

歓迎感の5段階評価 平均3.3点

5点：柏原市

4点：島本町・枚方市・交野市・忠岡町・岸和田市・羽曳野市・美原町など14件

3点：23件

2点：箕面市・高槻市・豊中市・門真市・堺市

1点：0件

⑧ 全体の統一感

ここでは、画面全体に統一感があるかについて、評価を行った。

全体の統一感の5段階評価 平均3.3点

5点：岸和田市・河南町

4点：池田市・茨木市・豊中市・泉南市・藤井寺市・大阪狭山市など13件

3点：24件

2点：泉大津市・貝塚市・泉佐野市・河内長野市

1点：0件

⑨ 印象度

ここでは、他の市町村との差別感があり印象的であるかについて、評価を行った。

印象度の5段階評価 平均3.2点

5点：岸和田市

4点：大阪市・枚方市・交野市・柏原市・羽曳野市・河南町・千早赤阪村

3点：33件

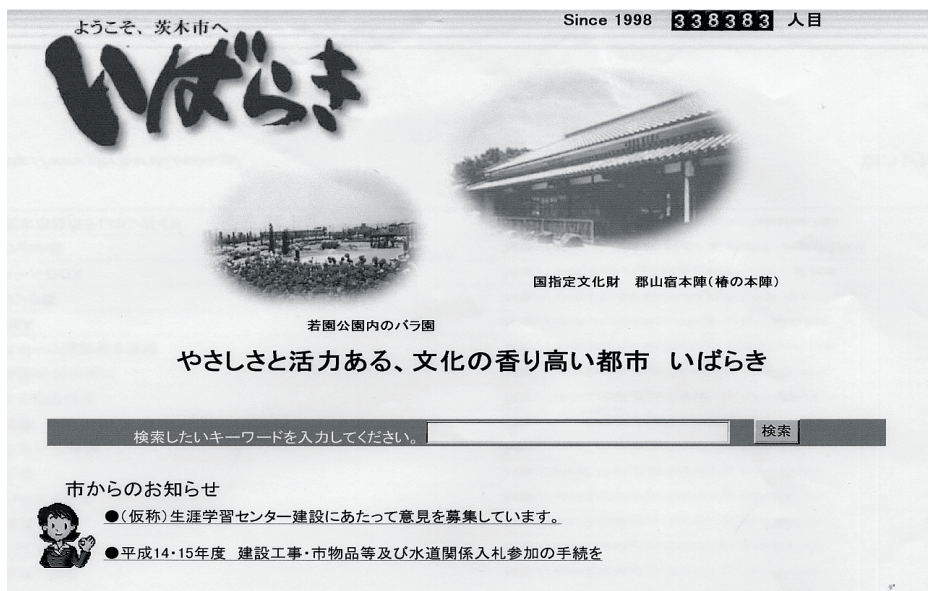
2点：箕面市・豊中市

1点：0件

(5) 43市町村のトップページ評価結果

評価結果は、表3の通りである。

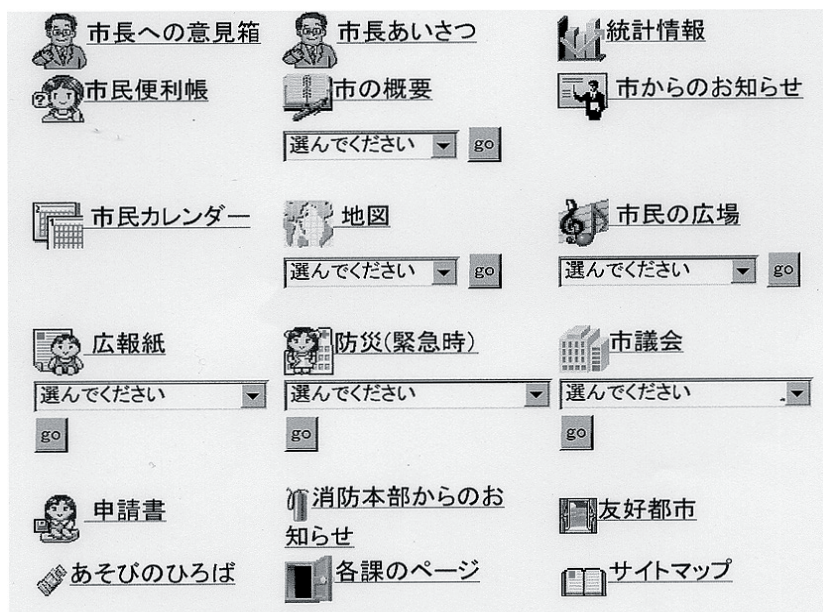
43市町村の平均は、3.3点。最高が岸和田市の4.2点である。自治体ごとに特性は異なり、発信すべき情報内容や量にもかなりの違いが見られた。しかし、以下に掲載したトップページは、比較的点数が高く、中でも、コンテンツの整理・コンセプトの明確さ・レイアウトの方法は、自治体のHP制作の参考になると思われる。



茨木市：配色のバランスもよく画面がまとまっている



交野市：検索項目がうまく整理されている



四条畷市：図記号が活用されている



岸和田市：外部からの閲覧者になじみやすい画面構成を行っている

古大阪狭山市

さやま

- 5万6千人のギャラリー
- 街角に生きる
- Q&Aコーナー
- 地車まつり

さやま

- 大阪狭山の歴史
- 水の郷100選
- ふるさとの道

さやま

- 最新ニュース
- 大阪狭山市施設案内
- 都市間交流
- 情報のページ(随時追加)
- 生涯学習情報

今月のさやま池

今月のさやま人

建築家 安藤忠雄さん

What's New

● Last update:11/28

大阪狭山市：情報がうまく整理されている

ようこそ、 千早赤阪村ホームページへ

このホームページは平成10年5月1日に開設しました。

あなたは**052100**人目のお客さまです。

[金剛山ロープウェイのホームページ](#)

[金剛山情報サービス](#) (随時更新)

[金剛山積雪情報サービス](#) (随時更新)



[むらってこんなどこ!](#) (千早赤阪村の紹介・場所)



[あそぶ・たべる・みる UP!](#) (千早赤阪村観光ガイド)
「観光マップを観光ワーキンググループのみんなで、
村じゅうを見て歩いて作りました」



[イベントガイド](#) (村のまつりや行事など)

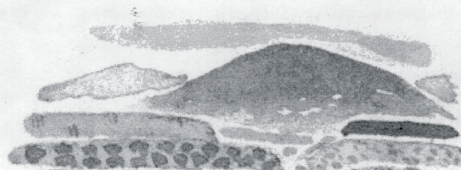


[リンク集](#) (おすすめリンク)



[とれたて情報](#) (新着情報)9月26日更新

一冊の絵本のような村、千早赤阪村。



千早赤阪村：イラストが効果的で歓迎感がある

おわりに

HPは、地域住民のみならず、全国・海外からも閲覧が可能であり、新しい情報発信の手段として注目されている。しかし、開設された効果については、現状ではなかなか把握することが難しく、効果があったと考えている自治体の多くは、自治体の知名度アップ、観光客からの問い合わせの増加、物産の問い合わせなど、外部からの閲覧による効果をあげている。地域内への効果としては、住民活動の活性化、行政サービスの向上を期待はしているものの、多少は効果があったのではないかと考えている程度で、今後への期待感が大きい。

開設の動機も、近隣の市町村がすでに開設をはじめたので、わが町も開設するという特有の横並び意識から始まっているため、ようやくHPの「質」も向上し始めた段階であるといえる。

インフォメーション・デザインの計画は、“何を、誰に、どう伝えたいのか”という情報伝達の第一歩から始まる。HPへの来訪者は、域外と域内に別れ、その求める情報には大きな違いがある。HPの目的として、域外への情報の発信、域内への情報の発信のいずれを目標とするのか？

表3 トップページのデザイン評価一覧表

市町村名	タイトル明示	書体	文字組み	イラスト表現	配色		情報の整理			歓迎感	全体の統一感	印象度	総合点 /60	平均点 /5
					カラーデザイン	可読性	ナビゲーション	利用のしやすさ	新着情報					
大阪市	4	3	3	4	4	3	4	5	3	3	4	4	44	3.7
能勢町	3	3	3	3	3	3	4	4	5	3	3	3	40	3.3
豊能町	4	3	4	3	4	3	4	4	3	3	4	3	42	3.5
池田市	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	4	3	40	3.3
箕面市	4	3	2	2	4	4	3	3	3	2	3	2	35	2.9
茨木市	4	3	3	4	4	4	3	4	3	4	4	3	43	3.6
高槻市	4	2	2	3	3	3	3	4	5	2	3	3	37	3.1
島本町	2	3	3	3	3	4	4	3	3	4	3	3	38	3.2
豊中市	4	2	3	1	4	3	3	2	4	2	4	2	34	2.8
吹田市	3	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3	3	38	3.2
摂津市	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37	3.1
枚方市	4	3	3	4	3	3	4	3	4	4	3	4	42	3.5
交野市	5	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4	48	4.0
寝屋川市	4	3	3	2	4	4	3	4	3	3	3	3	39	3.3
守口市	3	3	3	2	3	4	3	4	4	3	4	3	39	3.3
門真市	3	2	3	2	4	3	3	4	4	2	3	3	36	3.0
四条畷市	4	2	3	3	3	4	5	5	5	3	3	3	43	3.6
大東市	3	3	3	4	3	3	3	4	4	4	3	3	40	3.3
東大阪市	3	3	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	41	3.4
八尾市	4	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	39	3.3
柏原市	4	3	3	4	5	3	4	3	3	5	4	4	45	3.8
堺市	3	3	3	3	3	3	4	3	3	2	3	3	36	3.0
和泉市	3	3	3	3	4	3	4	3	4	3	3	3	39	3.3
高石市	3	3	3	3	4	4	4	3	5	4	4	3	43	3.6
泉大津市	4	2	2	3	3	4	4	3	3	3	2	3	36	3.0
忠岡町	4	3	3	3	4	2	3	3	3	4	3	3	38	3.2
岸和田市	4	3	4	5	4	4	4	4	4	4	5	5	50	4.2
貝塚市	4	3	2	2	2	4	4	3	3	3	2	3	35	2.9
熊取町	4	3	3	4	3	4	3	4	3	4	3	3	41	3.4
泉佐野市	2	2	3	3	3	4	3	2	3	3	2	3	33	2.8
田尻町	3	2	2	3	4	4	4	3	3	3	3	3	37	3.1
泉南市	4	3	3	4	3	3	3	2	4	4	4	3	40	3.3
阪南市	3	3	2	3	3	3	4	3	4	3	3	3	37	3.1
岬町	3	3	3	4	3	3	3	2	1	4	3	3	35	2.9
松原市	2	3	2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	35	2.9
羽曳野市	4	3	3	4	4	4	4	3	3	4	3	4	43	3.6
藤井寺市	3	3	2	2	5	3	4	4	3	3	4	3	39	3.3
河南町	3	3	3	3	4	4	4	3	1	3	5	4	40	3.3
千早赤阪村	3	3	4	5	5	3	3	2	3	4	4	4	43	3.6
富田林市	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	37	3.1
美原町	2	3	3	3	3	4	2	3	3	4	3	3	36	3.0
大阪狭山市	4	4	3	5	4	4	3	3	4	3	4	3	44	3.7
河内長野市	4	3	4	2	4	4	3	4	3	3	2	3	39	3.3
平均点	3.4	2.9	2.9	3.2	3.6	3.5	3.5	3.3	3.4	3.3	3.3	3.2	39.4	3.3

※大阪市・枚方市・守口市・岸和田市・泉南市については、目次省略型のトップページのため、トップページと2層目、両方で評価した。

この点を明確にしておかなければ、受け手のほしい情報がえられないという不満感しか残らない。千早赤阪村の場合は、トップページで域外来訪者を対象とし、また四条畷や交野市は域内来訪者を対象とした作成を行っているためコンテンツの内容が整理されている。トップページで両者を追う形のはデザインの位置付けに明確さがなく、何を伝えようとするのが不明確になっている。自治体がHPに求める目標が、域外への知名度アップ・域内産業の活性化および広報・地元出身者への地元情報の提供・イベント情報の提供など外部への情報発信、域内住民への身近な

情報の提供・開かれた自治体としての情報公開・電子自治体への試みなど、域内住民とのコミュニケーションの促進・サービスの向上を目指している現状では、情報を分離し、域内向け・域外向けの作成が好ましいのではないだろうか。

千早赤阪村の HP には域内向け情報がなく、域外者には金剛山を中心とする観光情報が豊富で満足のできるものではあるが、本来は住民の密度の低い町村にこそ、密接な住民とのコミュニケーションを図るための計画が必要になる。しかし、HP の運営母体が村ではなく、農林商工課が運営しているため、村の行政情報が流れないのもやむをえないのかもしれない。

また、自治体の公式 HP を検索するとき、〇〇市での検索では検索することができない。自治体の公式 HP は統一された書式で

<http://www.city.higashiosaka.osaka.jp/>

のように、URL が定められているが、総務省の運営する Nippon-Net など検索をするか、〇〇市役所と入力して、検索をかけるか、民間団体のリンク集などで検索するなど、身近な情報の提供を試みているにもかかわらず、市町村にアクセスするのが容易ではない。

私たち都市部住民は、自治体との関係が希薄になってきている中で、自治体の提供する HP には、さまざまな新しい情報が掲載されており、地域への関心を高めていくためにも、両者がお互いに関心を持ち、それらの身近な情報が活用できることが今後も大切になってくる。行政としてもインターネット活用者の把握、e-Mail による更新情報の提供、イベント情報の提供が図られると、住民の意識も高まり、HP の「質」の向上へとつながっていくのではないだろうか。

なお、本研究は平成 13 年度東大阪市地域研究助成金によるものである。

【参考文献】

- ・21 世紀制作研究所『歩み始めた e-デモクラシー ―自治体・国会議員のホームページ評価を踏まえて―』（2002/7）
- ・国土交通省『地方自治体のホームページ開設・運営状況調査』
- ・NRI 野村総合研究所『地方自治体におけるインターネットの活用に関するアンケート調査』（1998/12）
- ・内田広由紀『Web デザイン基礎講座』視覚デザイン研究所（2000）
- ・高橋晃『ゼロから始める Web デザイン』西東社（2002）
- ・太田公士『Web デザイン超入門』すばる舎（2001）